OIST&OKINAWA

沖縄と世界を科学でつなぐ

BUILDING THE FUTURE TOGETHER



oist.jp

OISTの最新情報は
お好きなSNSから

チャンネル登録、
フォローをお願いします!

YouTubeチャンネル
OISTてれび

Instagram

Facebook

X

イベント情報
配信中!

Instagram
（イベント専用アカウント）

LINE

沖縄科学技術大学院大学（OIST）
〒904-0495　沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1919-1
お問い合わせ　contact@oist.jp

2026.11発行

OIST OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
沖縄科学技術大学院大学



OISTとは？

オイスト

沖縄と世界を科学で結ぶ新しい架け橋

沖縄科学技術大学院大学（OIST、「オイスト」）は、世界中から研究者や学生が集まる国際的な大学院大学です。
研究分野の壁を越えた自由な発想で新しい知識と技術を生み出し、その成果を社会へとつなげています。
沖縄に根ざしながら、世界最先端の科学を推進しています。
OISTは、沖縄と世界を結ぶ新しい知の拠点です。

OISTの4つの役割

OISTは最先端の研究を基盤に、教育・イノベーション・アウトリーチの4つの柱で活動しています。
研究成果を社会に還元し、地域とともに持続可能な未来を創造します。



研究 Research

未知を探究し、新しい知を生み出す

世界トップレベルの研究環境のもと、生命科学、神経科学、物理学、数学、応用化学など幅広い分野の研究者が協力しながら、新しい発見に挑戦しています。



教育 Education

未来を担う研究者を育てる

5年一貫制の博士課程を通じて、国際社会で活躍する研究者やリーダーを育成。学生は専門分野だけでなく、多様な文化や価値観にも触れながら学びます。



イノベーション Innovation

研究成果を社会につなぐ

研究室で生まれた発見やアイデアを、暮らしや産業に役立つ技術やサービスへと育てています。また、新しい技術を持つ起業家や研究者を日本中・世界中から沖縄に迎え、事業づくりを支援。沖縄から世界へ羽ばたくスタートアップや新たな産業の創出に取り組んでいます。



アウトリーチ Outreach

科学を地域に届ける

学校や地域と連携し、科学教室やイベントなどを通じて、OISTの研究や研究者と地域をつなぎ、子どもから大人まで科学の楽しさや新たな発見に触れる機会を届けています。

なぜ沖縄なのか？

OISTの特徴

世界に開かれた研究環境と、沖縄に根ざした活動。
その両方を大切にしながら、OISTは新しい知識や技術、そして未来の可能性を生み出しています。

国際的な研究環境

OISTの公用語は英語。世界80の国・地域から研究者や学生が集い、多様な文化や価値観が交わる環境で研究と教育が行われています。

5年一貫制の大学院大学

学部を持たず、博士課程教育に特化。一人ひとりの研究テーマに向き合う少人数教育を実践しています。

分野を横断する研究

既存の学部や学科の枠組みにとらわれず、異なる専門分野の研究者が協力することで、新しい発見やイノベーションを生み出しています。

自由な発想を大切にする研究文化

研究者の好奇心や挑戦を尊重し、長期的な視点で研究に取り組める環境を整えています。研究者を信頼して支援することで、世界を変える発見につながる研究が生まれています。

地域に開かれた大学

地域との連携を重視し、教育、文化、産業、環境保全など幅広い分野で沖縄とともに活動しています。科学を通じて地域の未来づくりに貢献しています。

沖縄は、未来を創る島

世界が直面する課題に真っ先に取り組む島

島しょ地域ならではの自然環境と社会課題が共存する沖縄は、
世界がこれから直面する課題を先取りして研究できる場所です。
OISTは、この島全体を未来への実証フィールドとして、新しい知識と技術を世界へ発信しています。



豊かな自然環境

サンゴ礁、マングローブ、亜熱帯の生物多様性は世界的にも貴重な研究フィールドです。



島しょ地域ならではの課題

エネルギー、物流、食料、気候変動などの課題に対する新しい解決策を試すことができます。



地域とともに進む研究や活動

自治体や企業、学校、住民と連携しながら研究を進めています。



世界への発信

沖縄で生まれた知見を世界の学術界・産業界などとつなげます。

OIST TRIVIA #01

OISTを構想したのは誰？



OISTの構想を提唱したのは、2001年に沖縄及び北方対策担当大臣と科学技術政策担当大臣を兼任していた尾身幸次氏です。尾身氏は、「沖縄の自立的な発展」と「日本を科学技術立国として発展させたい」という二つの思いを結びつけ、沖縄に世界最高水準の国際的な研究大学院大学をつくる構想を打ち出しました。
その後、世界中の一流研究者へのヒアリングを重ね、真に世界的な研究機関のあり方を検討。さらに、2002年にノーベル生理学・医学賞を受賞したシドニー・ブレナー博士を招き、OISTの前身組織の理事長として迎え、世界最高水準の研究大学院大学という構想の実現に向けて、ともにOISTの創設を力強く牽引しました。「沖縄から世界へ」。その大胆なビジョンから生まれたOISTは、今では80もの国・地域から人材が集まる国際的な研究大学院大学へと成長しています。

数字で見るOIST

※2026年9月1日時点

教員の数（研究ユニットの数）
96

学生数
305

学生の外国人比率
77%

学生の男女比
男性 57 : 43 女性

スタッフ・学生の出身国
80の国と地域

OISTが設立された年
2011年
※2011年11月1日に学校法人沖縄科学技術大学院大学学園が設立

博士課程の合格率
4%

教員・学生の比率
1 : 3

50以上の専門分野

OISTが描く未来

沖縄から生まれる知が、未来を変える



OISTは、世界トップレベルの研究を通して新しい知識や技術を生み出すだけでなく、
その成果を人材育成や地域社会、産業の発展へとつなげています。
沖縄で生まれた発見や挑戦が、世界の未来をより良く変える力になる。
私たちは、科学の力で人と地域、そして世界の可能性を広げていきます。

人を育てる

次世代研究者
博士課程教育を通じて世界で活躍する研究者を育成するとともに、科学教室や教育プログラムを通じて、沖縄の子どもたちや若者の好奇心を育み、未来の可能性を広げることを目指しています。

起業家
世界中から集える起業家や研究者が、沖縄を拠点に、OISTの研究環境や国際的なネットワークを活用しながら、新しい技術やサービスの創出に挑戦しています。沖縄から世界へ羽ばたき、社会や産業の未来を変えるイノベーターを育みます。

グローバル人材
沖縄に集まる世界中の研究者や学生との交流を通して、多様な価値観や考え方を学びます。OISTは、人と人、地域と世界をつなぎながら、国際的な視野を持って活躍できる人材を育むとともに、地域の若い世代にも世界へ目を向けるきっかけを届けています。

地域と未来をつくる

新しい産業
OISTの研究成果や世界中から集まる人材・アイデアをもとに、新たな技術やビジネスの創出を支援しています。起業家や企業、投資家が沖縄に集まり、スタートアップや新産業の創出を通して、地域経済の活性化と世界への発信につなげています。

地域課題の解決
沖縄が直面する環境、教育、医療、食料、エネルギーなどの課題に、最先端の科学と地域との連携によって挑んでいます。地域を研究のフィールドとして活用しながら、沖縄から世界にも応用できる解決策の創出を目指しています。

持続可能な社会
サンゴ礁や生物多様性の保全、健康長寿や持続可能な漁業や農業、資源循環など、沖縄の豊かな自然と地域社会を未来へつなぐ研究を進めています。地域とともに学び、実践しながら、持続可能な社会づくりに貢献しています。

世界に貢献する

科学の発展
研究者の自由な発想と好奇心を大切にしながら、基礎研究に取り組んでいます。生命科学から量子技術まで、未来のブレークスルーにつながる発見を生み出し、人類の知の地平を広げています。

技術革新
量子技術、AI、環境技術、海洋科学、生命科学など幅広い分野で研究を推進し、次世代を支える技術の創出に挑戦しています。沖縄から生まれた研究成果が、世界中の産業や社会を支える未来につながっています。

地球規模課題への挑戦
気候変動、生物多様性の損失、感染症、高齢化、食料問題など、人類共通の課題に取り組んでいます。沖縄という地域から得られる知見を生かしながら、世界の未来に貢献する研究を進めています。

数字で見るOIST

ノーベル賞受賞者



1名

スバンテ・ペーボ教授が
2022年にノーベル生理学・医学賞受賞

発掘された古代の人骨からDNAを抽出・解析する方法を確立、ネアンデルタール人と現代人（ホモ・サピエンス）のDNAを比較した結果、現代人がネアンデルタール人の遺伝情報を受け継いでいることなどを発見しました。

OIST TRIVIA #02

OISTのキャンパスは誰がデザインした？



OISTのキャンパス（センター棟～第3研究棟）は、日建設計、コーンバーグ・アソシエイツ、国建の共同プロジェクトによって生まれました。設計を担った一人のケン・コーンバーグ氏は、父と兄がノーベル賞受賞者という科学者一家の出身で、世界各地の研究施設を手がけるラボラトリーデザインの先駆者です。OISTでは、人と人との出会いから新しい発見が生まれることを重視し、研究者同士が自然に交流できる空間を意識して設計されています。また、恩納村の豊かな自然に配慮して谷を残し、建物を尾根に沿って配置。世界中から優秀な人材が集まり、研究と自然、地域社会が共存するキャンパスを目指したのです。

キャンパス編

OISTキャンパスの総面積（恩納キャンパス）
68.6ヘクタール ha
※首里城約14個分

学校訪問数（2025年度実績）
102校から 5,192名

OISTキャンパスの研究棟数
5

OISTキャンパス来訪者数（2025年度実績）
47,566名

アウトリーチ活動における参加者数（2025年度実績）
145,516名

イノベーション編

OISTから開示された特許数（2007-2024実績）
261

OIST発スタートアップ数（2026年8月現在）
39

沖縄県内のスタートアップで、OIST発のスタートアップが占める割合（2025年度実績）
25%

OISTの研究成果の実用化を支援するプルーフオブコンセプトプログラムのプロジェクト数（2015-2026年8月実績）
100

OIST Innovation Incubatorへの入居企業数（2026年8月現在）
53

OIST Innovation Acceleratorプログラムを通じて支援を受けているスタートアップ（2026年8月現在）
22

OISTにあるインキュベーター施設の数
3

OISTのこと、動画で見てみませんか？

研究者の素顔や最新の研究、イベントの様子などを日本語でお届けするYouTubeチャンネル「OISTてれび」。月1回配信のポッドキャスト「OIST ハプラジオ」や、キッズレポーターが活躍する番組など、科学をもっと身近に楽しめるコンテンツを配信しています。
研究の話も、キャンパスの話も。OISTの"今"がここにあります。
YouTubeチャンネル OISTてれび

OISTで活躍する県出身者

沖縄で育ち、世界へ羽ばたく

OISTには、グローバルな研究や仕事に挑戦しながら、
故郷への思いを大切に活動する県出身者がいます。
その一人ひとりの物語をご紹介します。



Hirotsugu Shiroma

腸内細菌から、
体と脳の健康の未来へ

研究者
城間 博紹さん

【略歴】
中城村出身。沖縄工業高等専門学校卒業後、東京工業大学（現：東京科学大学）生命理工学院 生命理工学系にて修士号・博士号を取得。OIST統合オープンシステムユニット所属。

沖縄高専在学中に、情報科学を活用して生命の仕組みを解き明かすバイオインフォマティクスに興味を持った城間博紹さん。もっと研究を続けたいという思いから大学に進学して修士号・博士号を取得しました。現在はOISTで、腸内細菌を効率よく調べるためのロボットによる実験自動化システムの開発と、沖縄県の高齢者を対象に、腸内環境と認知機能の関係を探る研究に取り組んでいます。

「実験を自動化する技術は、病気の早期発見だけでなく、環境調査など幅広い分野で活用できる可能性があります。また、腸内細菌と認知機能の関係を明らかにすることは、将来的には認知機能低下の予防に役立つかもしれません」と、自身の研究が社会課題の解決につながる可能性に期待を寄せています。

沖縄から世界へ。
その経験を沖縄の子どもたちへ。



Naano Nagahama

学生
長濱 奈甘乃さん

【略歴】
うるま市出身。沖縄県立与勝緑が丘中学校・沖縄県立与勝高等学校卒業、筑波大学人間学群心理学類卒業。2024年OIST博士課程進学、発達神経生物学ユニットに所属。

中学生の時にOISTのサイエンスフェスタに参加し、初めてキャンパスを訪れた長濱奈甘乃さん。高校生の時に県費留学制度を利用してオランダに留学し、海外で学ぶことの楽しさや視野の広がりを実感しました。大学では、小学生の時から関心をもっていた心理学を専攻。在学中にOISTでのインターンシップに参加したことがきっかけで、博士課程への進学を決意しました。現在はADHDの特性を持つ子どもと、持たない子どもの条件付け（結果を予測して適切な行動に結びつける力）の違いを研究しています。「OISTは、分野の違う先生が日常的に協力して研究を進めています。心理学と神経科学を組み合わせた研究ができるのは、OISTならではだと思います。私の研究もここでなければ難しかったかもしれません」

博士課程修了後については、「将来は研究者として海外でさらに経験を積みたいと思います。でも、いつかは沖縄に戻って、子どもの頃の私のように、まだ十分な機会に恵まれていない子どもたちが、新しい世界に出会えるような活動もしたいと思っています」と語ります。

研究と社会をつなぎ、
沖縄から新たな価値を。



Hitomi Shinzato

アドミニストレーター
新里 瞳さん

【略歴】
浦添市出身。沖縄女子短期大学附属高等学校（当時）卒業。オーストラリアのTechnical and Further Education（TAFE）でコミュニティサービスを専攻後、メリーランド大学グローバルキャンパスで環境マネジメントを学ぶ。帰国後は金融、建設、サービス、教育など幅広い分野で勤務経験を積み、その後OISTに入職、現在に至る。

金融、建設、サービス、教育など、さまざまな業界での勤務経験を経て、開学前のOISTに入職した新里さん。現在はリサーチユニットアドミニストレーターとして、研究室の運営支援や研究環境づくりに携わっています。また、芭蕉布の研究を支援したことをきっかけに、沖縄の伝統工芸が抱える後継者不足や生産量の課題に着目。2023年にOIST Innovationのテクノロジーバイオニア・フェローシップに採択され、芭蕉や天然繊維の糸を機械で製造する技術開発に挑戦しました。現在も研究室運営支援をしながら、OISTのインキュベーション施設で機械の開発を進めています。「研究と社会、人と人をつなぐ橋渡し役として、沖縄から新たな価値を生み出していきたい」と、意気込みを語ります。

Tatsuki Hamamoto

量子技術の可能性を、
沖縄の未来へ。



卒業生
濱元 樹さん

【略歴】
那覇市出身。松島中学校から開邦高校へ。大阪大学基礎工学部システム科学科で生物を専攻し、学部・修士を取得。その後OIST量子情報物理実験ユニットにて博士号を取得。現在はOIST発スタートアップのQubitcore株式会社でリサーチャーを務めている。

高校生の時にOISTで開催されたノーベル賞受賞者の講演会に参加した濱元樹さん。当時は「自分とは関係のない別世界」だと感じていたものの、大学院進学を検討する中で、世界最先端の研究環境や英語を公用語とする環境に魅力を感じ、OISTの博士課程への進学を決意しました。もともとは生物学を専攻していましたが、OISTの特徴である異分野の研究者との交流を通して初めて量子情報の実験を体験。その奥深さに魅了され、量子情報分野へ専攻を変更しました。博士課程修了後は、研究室で培った量子技術を社会で役立てたいとの思いから、沖縄に量子研究開発拠点を置くQubitcore株式会社に入社。現在は、リサーチャーとして量子コンピュータの研究開発に携わっています。量子技術が持つ社会課題の解決や産業の発展につながる大きな可能性を踏まえ、「沖縄県出身者として、量子コンピュータを核とした研究開発や新産業創出を通じて、沖縄の産業振興に貢献したい」と、地域経済の活性化への思いを語ります。

沖縄×OISTマップ

あなたの町もOISTの科学とつながっている

OISTは沖縄の持続可能な発展のために、各市町村と連携・協働し、
さまざまな取り組みを行っています。
多数の事例があるのですが、ここではそのごく一部をご紹介します。

●研究 ◆教育 ■アウトリーチ ▲地域連携 ♠産学連携



沖縄県・沖縄県広域

- ▲子どもの居場所学生サポートボランティア（一般社団法人大学コンソーシアム沖縄）
- 沖縄の亜熱帯気候を利用したミズゴケ栽培促進効果と共生微生物解析（沖縄科学技術振興センター）
- ●サンゴ礁・沿岸・外洋の生態系保全に関する環境DNA／環境RNA技術の開発と応用（沖縄科学技術振興センター）
- ●環境DNAによるサンゴ礁の調査（沖縄県環境科学センター）
- ■ワークショップ「あなたも今日からアリ博士？」（沖縄県教育センター）
- ▲テストベッドプロジェクト（Okinawa Testbed Island事業）
- ●沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産推薦登録地における保全管理等のための連携と協力に関する協定書（沖縄県、琉球大学、国立環境研究所、森林研究・整備機構　森林総合研究所、林野庁九州森林管理局沖縄森林管理署、環境省沖縄奄美自然環境事務所）
- ◆講演「アリ類を使った探求活動提案」（沖縄生物教員研究会）
- ◆▲ヒアリ同定研修（沖縄島行政関係者／沖縄県トラック協会／沖縄県物流業者／沖縄県町村議会委員会）
- ●◆ワークショップ「アリ類を使った探求活動提案」（県内高等学校生物教員）
- ■▲伝統芸能公演「琉球の響き」（琉球古典音楽野村流伝統音楽協会）
- ●▲沖縄県内の金属加工企業に、OISTの研究機器（電子顕微鏡）の利用機会を有償で提供
- ♠農業から生まれるイノベーション～沖縄の農業課題に挑む

国頭村

- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（やんばる学びの森／琉球大学・与那フィールド／琉球大学・奥の山荘）
- ■出前授業（奥間小学校）
- ■ワークショップ　あなたも今日からアリ博士？（奥小学校／環境省やんばる野生生物保護センターウフギー自然館）
- ■企画展「おきなわのアリから見る生物多様性」／ワークショップ「君の足元のアリを知ろう！」（環境省やんばる野生生物保護センターウフギー自然館）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（国頭漁業協同組合）

大宜味村

- ●■芭蕉布の素材と技法の研究・展示会・シンポジウム（喜如嘉の芭蕉布保存会）
- ●◆アリ類調査共同研究／昆虫バイオサンプリング研究での共同研究（辺土名高等学校）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（辺土名高等学校）
- ●大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト「外来種植物の繊維材料活用検討」
- ◆■SCORE!（辺土名高等学校）

東村

- ●◆OIST学生による地域課題解決型グループプロジェクト（Haitai Corporation／東村観光協会）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（慶佐次湾のヒルギ林）

今帰仁村

- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（今帰仁漁業協同組合）
- ◆■SHIMA／学校訪問／SCORE!（北山高等学校）

本部町

- ■職場体験（伊豆味中学校）
- ●包括連携協定（沖縄美ら島財団）
- ♠パイナップル畑における実証実験（美らSUNファーム）
- ●共同研究（美ら海水族館）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（本部漁業協同組合）
- ●◆昆虫バイオサンプリング研究での共同研究（本部高等学校）
- ■サイエンステックフェスin本部
- ●水中ドローンと環境DNAを利用したサンゴ礁の調査（瀬底島）

名護市

- ▲包括連携協定（名護市）
- ◆■学校見学／インターンシップ／SCORE!（沖縄工業高等専門学校）
- ●▲包括連携協定／共同研究契約（沖縄工業高等専門学校）
- ■ALLやんばるサイエンスクラブ大北小学校出前授業（大北小学校）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（名護漁業協同組合／羽地漁業協同組合）
- ■学校見学（名護高等学校附属校中学校）
- ■出前授業（名護小学校）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（名護中央公園／嘉津宇岳／源河小学校跡地）
- ■～発見!やんばるから広がる科学の世界～「カガジカン」（名護博物館）
- ■名護博物館プレオープン展示／展示コンテンツ提供「名護のアリ」（名護博物館）
- ●共同研究契約（名桜大学）
- ●シークヮーサーのゲノム解析（有限会社勝山シークヮーサー／沖縄県農業研究センター名護支所）
- ▲♠エネルギー、モビリティ、ドローン分野におけるテストベッドプロジェクト
- ◆■SCORE!（北部農林高等学校／名護高等学校）

恩納村

- ■▲包括連携協定
- ■OIST×OMRC コラボ企画「アリ研究体験教室」（OMRC（ルネッサンスリゾートオキナワ））
- ■サイエンスクラブ／職業体験（うんな中学校）
- ♠リゾートホテルでの環境教育アクティビティの共同開発（オキナワマリンリサーチセンター）
- ●海洋研究における連携（沖縄電磁波技術センター）
- ●▲モズク、サンゴ、海流等に関する共同研究／気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査／マリンサイエンスステーションの立地・運営に関するサポート／水中ドローンと環境DNAを利用したサンゴ礁の調査（恩納村漁業協同組合）
- ■展示・OKEON美ら森プロジェクト（恩納村博物館）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（県民の森）
- ■サイエンスクラブ（山田小学校）
- ♠SIP事業「キャンパスのカーボンニュートラルを実現する蓄電池と水素カートリッジのモバイル搬送」
- ♠農業から生まれるイノベーション～沖縄の農業課題に挑む
- ●◆OIST学生による地域課題解決型グループプロジェクト
- ■恩納村×OISTこどもかがく教室／ジュニア・サイエンスプログラム／うんなまつり
- ■工芸展「恩納村 手しごとのかたち」（恩集工芸会）
- ▲♠エネルギー、モビリティ、ドローン分野におけるテストベッドプロジェクト

宜野座村

- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（宜野座村漁業協同組合）
- ♠OISTブルーフォプコンセプトプロジェクト「EbiSeq」（有限会社宜野座養殖場）

金武町

- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（金武漁業協同組合）
- ●ADHDに特化したペアレントトレーニング効果の実証研究（独立行政法人国立病院機構琉球病院）

うるま市

- ♠INO会員（アクロラド株式会社）
- ■職場体験（沖縄アミークスインターナショナル）
- ■HiSci-Lab（具志川高等学校）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（勝連漁業協同組合／南原漁業協同組合／石川漁業協同組合／与那城町漁業協同組合）
- ●■OIST coral projectでのサンゴの植え付けとモニタリング（平安座島サンゴ礁保全再生活動地域協議会、与那城町海業部会）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（野鳥の森公園）
- ■出前授業（与勝高等学校）
- ◆ワークショップ「足元の生き物の多様性と外来生物」（与勝高等学校）
- ■SHIMA（与勝高等学校／具志川高等学校）
- ●水中ドローンと環境DNAを利用したサンゴ礁の調査（与那城町漁業協同組合）
- ▲♠モビリティ分野におけるテストベッドプロジェクト
- ◆■SCORE!（中部農林高等学校）

読谷村

- ■▲包括連携協定
- ◆■OISTサイエンススタジオ（ゆんラボ・未来館内）／読谷まなびフェスタ
- ■学校見学（喜名小学校）
- ●◆アリ類を使った探究活動を通した共同研究（読谷高等学校）
- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/SCORE!（読谷高等学校）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（読谷村漁業協同組合）
- ●沖縄の文化財の保護と保全に関する研究（読谷村歴史民俗資料館）
- ■職場体験（読谷中学校）
- ●高温に強いサンゴはなぜ強いのかの研究（有限会社 海の種）
- ◆■SCORE!（沖縄クリスチャンスクールインターナショナル）

嘉手納町

- ■出前授業（屋良小学校）
- ■はいさい!いちゃりば祭（嘉手納町教育委員会　社会教育課）
- ■OKEON美ら森プロジェクト講演（嘉手納町生涯学習フェスティバル）

沖縄市

- ■出前授業（安慶田中学校）
- ◆■キッズサイエンスカレッジ/沖縄こどもの国×OISTサイエンスキャンプ（沖縄こどもの国）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（沖縄市漁業協同組合）
- ▲包括連携協定（沖縄市教育委員会）
- ●◆自然史研究や教育に関する連携協定（沖縄市教育委員会）
- ■企画展示「やんばるの入り口」、「罠展」、「音で知る自然　沖縄のサウンドスケープ」／講演「沖縄の外来種」（沖縄市郷土博物館）
- ■パネル展「小さなエイリアン展　沖縄に潜む小さな侵略者」（沖縄市立図書館）
- ■職場体験（宮里中学校）
- ●◆アリ類を使った探究活動を通した共同研究／昆虫バイオサンプリング研究での共同研究（球陽高等学校）
- ◆■出前授業/SEEDプログラム/高校生を対象としたハイレベル型体験プログラム/Kyuyo International Forum for Science（球陽高等学校）
- ◆▲SSH運営指導委員（球陽高等学校）
- ◆■SCORE!（美里高等学校）
- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/SCORE!（球陽高等学校／美来工科高等学校）
- ■倉敷ダム祭りブース出展（倉敷ダム）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（倉敷ダム／嶽山原／東南植物楽園）
- ■ワークショップ「あなたも今日からアリ博士？」（中ノ町小学校／東南植物楽園）
- ■OKEONパネル展示（東南植物楽園）
- ■美原小サイエンスクラブ（美原小学校）

北谷町

- ◆■SHIMA/SCORE!（北谷高等学校）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（北谷町伊礼原遺跡）
- ◆■SCORE!（ザイオン・クリスチャン・アカデミー・インターナショナル/北谷高等学校）

北中城村

- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（中城公園）
- ◆■SCORE!（クバサキハイスクール）

宜野湾市

- ■出前授業（アメラジアンスクール・イン・オキナワ）
- ■学校見学（沖縄カトリック高等学校/宜野湾高等学校）
- ■SHIMA（沖縄カトリック中学高等学校／普天間高等学校）
- ■企画展への出展・大昆虫展（宜野湾博物館）
- ■HiSci-Lab（普天間高等学校）
- ●◆アリ類を使った探究活動を通した共同研究（普天間高等学校）
- ◆■SCORE!（宜野湾高等学校）

浦添市

- ■スバンテ・ペーボ教授ノーベル賞受賞記念講演（てだこホール）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（浦添宜野湾漁業協同組合）
- ♠包括連携協定（沖縄電力株式会社）
- ♠EMS実証事業、テストベッドプロジェクト（沖縄電力株式会社）
- ♠「沖縄ブルーカーボンプロジェクト」覚書締結（株式会社りゅうせき、JANUS）
- ■企画展示・「小さなエイリアン」展（昭和薬科大学附属高等学校中学校図書館）
- ■子ども科学技術人材育成事業／高校生を対象としたハイレベル型体験プログラム（昭和薬科大学附属高等学校）
- ■HiSci-Lab/SHIMA（昭和薬科大学附属高等学校／陽明高等学校）
- ■沖縄県青少年科学作品展（沖縄電力株式会社）
- ◆■SCORE!（浦添高等学校/浦添工業高等学校）

那覇市

- ♠Connecting Innovators and Communities - How can we bridge research and community?（JA 沖縄）
- ●サンゴ礁研究（沖縄環境調査株式会社）
- ♠INO会員（沖縄銀行）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（沖縄県近海鮪漁業協同組合／那覇地区漁業協同組合／那覇市沿岸漁業協同組合）
- ■ワークショップ「足元の生き物の多様性と外来生物」（沖縄県立図書館）
- ■OISTサイエンストークシリーズ「生命の起源」/OISTサイエンストークシリーズin那覇「マイクロプラスチックと私達」（沖縄県立図書館）
- ■博物館企画展「目からウロコの生物実験展」/ワークショップ「あなたも今日からアリ博士？」/企画展示「小さなエイリアン展」/企画展示「おきなわの生物多様性を守ろう」（沖縄県立博物館・美術館）
- ♠連携協定/Basic Knowledge for Startups / Guidelines for Startup Grants（沖縄産業振興公社）
- ■学校訪問（沖縄尚学高等学校）
- ■令和5年度子ども科学技術人材育成事業／高校生を対象としたハイレベル型体験プログラム（沖縄尚学高等学校／那覇国際高等学校／首里高等学校／興南高等学校）
- ●◆アリ類を使った探究活動を通した共同研究（首里高等学校）
- ■SHIMA（小禄高等学校／那覇国際高等学校／那覇高等学校／沖縄尚学高等学校／首里高等学校／興南高等学校）
- ■出前授業（大道小学校）
- ●研究にかかる各種協力（第11管区海上保安本部）
- ●▲包括連携協定（那覇海上保安部）
- ◆▲ヒアリ同定研修（那覇空港関係者）
- ■HiSci-Lab（那覇高等学校／那覇国際高等学校／首里高等学校／興南高等学校）
- ●◆昆虫バイオサンプリング研究での共同研究（那覇国際高等学校）
- ●沖縄県民新型コロナウイルスワクチンの有効性評価（那覇市医師会）
- ◆▲ヒアリ研修（那覇市医師会）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（末吉公園）
- ■講演　末吉公園を考える大人の観察会（末吉公園）
- ♠包括連携協定（琉球銀行）
- ■サイエンスクラブ/サイエンステックフェスin那覇
- ◆■SCORE!（沖縄尚学高等学校/興南高等学校/首里高等学校/首里東高等学校/那覇国際高等学校/那覇西高等学校）

西原町

- ■CYCLE展/コンサート（沖縄県立芸術大学）
- ◆■HiSci-Lab/SCORE!（西原高等学校）
- ●◆包括連携協定/共同研究契約/サマーインターンシップ/昆虫学実習/OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（琉球大学）
- ▲♠OISTキャンパスツアー&スタートアップ交流イベント2025-2026（琉球大学）
- ■◆♠Okinawa Startups Taking on the Globe―世界に挑む!沖縄発スタートアップのマインドセット/苦手意識は妄想!?目からうろこの英語プレゼンセミナー/Okinawa Campus Idea Pitch Contest（琉球大学）
- ■講演・OKEON美ら森プロジェクト（琉大カガク院）

与那原町

- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（与那原・西原町漁業協同組合）

南風原町

- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/高校生を対象としたハイレベル型体験プログラム/SCORE!（開邦高等学校）
- ■学校見学（開邦中学校）

豊見城市

- ♠INO会員/テストベッドプロジェクト北部地域に関する実証事業に関する検討/カーボンニュートラルについての覚書締結（オリオンビール株式会社）
- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/SCORE!（南部農林高等学校）
- ■OIST・沖縄高専キャンパスツアー（豊見城市）

南城市

- ■出展 こどもの遊びまつりin玉城（玉城青少年の家）
- ■ワークショップ「あなたも今日からアリ博士？」/ブース出展・玉城オープンデー（玉城青少年の家）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（佐敷町地域漁業協同組合／知念漁業協同組合）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（斎場御嶽／玉城青少年の家）
- ●OIST coral projectでのサンゴの植え付けとモニタリング（知念海洋レジャーセンター）

八重瀬町

- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/SEEDプログラム/学校訪問/SCORE!/ワークショップ「足元の生き物の多様性と外来生物」（向陽高等学校）
- ●◆アリ類調査共同研究（向陽高等学校）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（港川漁業協同組合）
- ◆■SCORE!（南部商業高等学校）

糸満市

- ●共同研究契約（沖縄県水産海洋技術センター）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（糸満漁業協同組合）
- ●♠OISTブルーフォプコンセプトプロジェクト「Plastitective」（糸満漁業協同組合）
- ●学校見学（糸満高等学校）
- ●OKEON美ら森プロジェクト・環境モニタリングサイト（平和創造の森公園）
- ◆■SCORE!（沖縄水産高等学校）

宮古島市

- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（伊良部漁業協同組合／池間漁業協同組合／宮古島漁業協同組合）
- ♠未利用バイオマスのアップサイクル（菊之露酒造）
- ■HiSci-Lab/SHIMA/OKEON美ら森プロジェクト講演（宮古高等学校）
- ◆▲ヒアリ同定研修（宮古保健所）
- ■学校見学（城東中学校）
- ■サイエンステックフェスin宮古島/サイエンストリップin宮古島
- ●オニヒトデのゲノム解析
- ●環境DNAによるサンゴ礁の調査（沖縄県環境科学センター）
- ◆■SCORE!（宮古総合実業高等学校）

石垣市

- ●オニヒトデのゲノム解析
- ■学校見学（新川小学校）
- ●環境DNAによるサンゴ礁の調査（水産技術研究所）
- ●海洋研究にかかる連携（水産総合研究センター）
- ◆▲ヒアリ同定研修（石垣保健所）
- ●気候変動と持続可能な漁業に関するアンケート調査（八重山漁業協同組合）
- ◆■SHIMA/SCORE!（八重山高等学校）
- ◆■HiSci-Lab/SHIMA/SCORE!（八重山農林高等学校）

科学を地域へ



地域とつながるOIST

各プログラムについて詳しくは➡

地域にひらかれた科学と体験の場づくり

OISTは、子どもたちや地域の人々が科学と出会い、
学び、挑戦するきっかけづくりに取り組んでいます。
研究者との交流や体験型プログラムを通して、
好奇心や探究心を育み、
地域と共に未来を担う人材を応援しています。



小中学生 **こどもかがく教室**

恩納村とOISTが15年以上にわたり共同で開催している、小中学生向け夏休みの科学プログラムです。実験や見学、体験活動を通じて、子どもたちが本物の科学に触れ、研究者の視点や科学の持つ可能性に出会う機会となっています。



一般・子ども **OISTサイエンススタジオ**

読谷村に開設されたOIST初のオフキャンパス型科学教育施設です。
子どもから大人まで、誰もが科学を身近に体験できるスタジオで、OISTの研究紹介をはじめ、地域と行った生き物調査や、自然を題材にした展示、体験、工作ワークショップなどを通じて、科学への興味や発見を育む、地域に開かれた学びの場となっています。



一般・子ども **OISTサイエンスフェスタ**

子どもから大人まで、誰もが科学の楽しさに触れられる一般公開イベントです。研究者や学生による体験型プログラムや実験デモ、講演、研究施設の公開を通じて、科学への興味や発見を育む機会となっています。



一般 **OIST見学プログラム**

地域の皆さまにOISTを身近に感じていただくため、キャンパスを一般公開しています。研究施設の見学やガイドツアーを通じて、最前線の科学研究を身近に感じていただけます。

●ガイド付きキャンパスツアー（要予約）
OIST職員がご案内する45分間のキャンパスツアーです。研究施設の一部や建築デザイン、国際的な研究環境などをご紹介します。
実施日:毎週 火曜・木曜（祝日・年末年始を除く）
時間:13:30～14:15（約45分）
定員: 15名まで
申込:事前予約制（Webフォームから申込み、人数に達し次第締切）

●自由見学（予約不要）
ご自身のペースでOISTキャンパスをご見学いただけます。
受付時間:毎日 9:00～17:00
（年末年始[12/29～1/3]を除く）
申込:不要。受付で入館手続きを行ってください。
※研究棟の内部見学は含まれません。
※多数での自由見学を希望の場合には、事前にご連絡をお願いします。



高校生 **SCORE! サイエンス in 沖縄: 起業のための研究**

県内の高校生が、身近な社会課題を科学技術で解決するアイデアを発表するコンテストです。研究や実験だけでなく、起業家精神やプレゼンテーション能力も養いながら、科学を社会の課題解決につなげる視点を学ぶ機会となっています。未来の研究者や発明家、起業家の育成につながる取り組みです。



高校生 **HiSci Lab** ハイサイ・ラボ

沖縄県内の女子高校生を対象としたサイエンスワークショップです。最先端の研究に取り組む女性科学者との交流を通して、研究内容はもちろん、理系分野を選んだきっかけや学生時代の経験、研究者としての働き方などを学びます。将来の進路やキャリアについて考える機会を提供し、科学への興味や挑戦する気持ちを育みます。



一般 **文化・芸術プログラム**

沖縄や国内外のアーティストによる公演や展示を定期的に開催しています。多彩な文化と科学の新たなつながりを育み、沖縄ならではの魅力を世界へ発信しています。

小中高校生 **OISTサイエンストリップ・出前授業**

離島の児童生徒にもOISTの科学に触れる機会を届けるため、OISTの科学者や学生が地域を訪れ、講演や体験型プログラムを実施しています。高校生向けには、研究者が学校を訪問し、自身の研究やキャリアパスに関する、キャリアトークも行っています。地域や学校と連携しながら、沖縄県内のどこに住んでいても、科学への興味や発見を育む機会につながっています。





高校生 **SHIMA**

沖縄の自然や文化について学びながら、島々が抱える課題や持続可能な未来について考える教育プログラムです。科学者との交流やワークショップを通して、島しょ地域ならではの生態系や文化への理解を深め、SDGsの視点から地域の未来づくりについて学びます。



一般 **サイエンス・トーク**

OISTの科学者や学生、OISTを訪れる世界的な研究者によるトークイベントです。研究の最前線や科学の面白さに触れながら、科学への興味や理解を深める機会となっています。

ノーベル賞受賞者スバンテ・ペーボ教授によるサイエンストーク（2022年）

OISTのイベント情報を見逃さない!
フォロー&お友達登録をお願いします。

Instagram OIST Events (@oistevents)
講演会や展示会イベントなど、一般の方にご参加いただけるOIST主催イベント情報を網羅して発信しています。

LINE OIST イベント情報
OISTキャンパスやOISTサイエンススタジオ、外部機関で開催されるOIST公式イベント情報をいち早くお届けします。

沖縄から未来を考える

研究フィールドは、沖縄

各研究について詳しくは➡

OISTは、沖縄が抱えるさまざまな課題に科学で向き合い、
その研究成果を地域から世界へと発信しています。

海洋



サンゴ礁をどう守る?

沖縄の海を彩るサンゴ礁。その変化をより正確に、より広い範囲で把握する研究を進めています。海水中の環境DNAを活用し、日本の造礁サンゴを高精度で識別する技術を開発。サンゴ礁保全に役立つデータを蓄積し、その成果を誰もが利用できる形で公開することで、研究者だけでなく地域の人々や次世代にも海の環境への関心を広げています。

海ぶどうの謎を解き明かす

沖縄を代表する海の幸、海ぶどう。その安定生産を支えるための研究が進められています。OISTは世界で初めて海ぶどうの全ゲノムを解読しました。さらに、恩納村の生産者から寄せられた海ぶどうの生育不良の相談をきっかけに、原因解明に向けた研究を進め、持続可能な養殖や生産性向上への貢献を目指しています。

海の力で気候変動に挑む

マングローブや海草藻場は、二酸化炭素を吸収・貯留する重要な役割を担っています。OISTは企業や自治体と連携し、環境DNAを活用した調査や生態系の再生、沖縄独自の炭素評価手法の開発を推進。海洋環境の保全とともに、地域に根ざした持続可能な社会づくりを目指しています。

環境



外来種から沖縄を守る

島の生態系は、一度外来種が定着すると大きな影響を受けることがあります。OISTは長年にわたり県内で生物多様性のモニタリングを実施。行政機関などによる外来アリ対策ネットワークに参画するとともに、モニタリングで確認された外来種情報を行政へ提供し、沖縄県の自然を守るための外来種対策に貢献しています。さらに、琉球大学や那覇市および環境省などと共同で、外来アリのハヤトゲフシアリの防除に取り組み、2026年3月には、沖縄県内からのハヤトゲフシアリの根絶に成功しました。

沖縄の自然を未来へつなぐ

沖縄の豊かな亜熱帯の自然を未来へつなぐため、地域に根ざした研究が行われています。OISTが三菱みらい育成財団の助成を受けて行っている「昆虫バイオサンプリング研究」では、高校生が研究者の指導を受けながら昆虫研究に挑戦。集められた標本やデータは、生物多様性や外来種、環境変化を解明する研究に活用されます。

健康・ウェルビーイング



子どもの可能性を引き出す

発達特性の有無に関わらず、子どもたちが、自分らしく成長できる社会づくりが求められています。OISTではADHDに関する研究成果をもとに、親の心の健康を支え子どもとの関わり方の工夫をアップデートした支援方法を開発。子どもや家族を支える取り組みの社会実装を進めています。

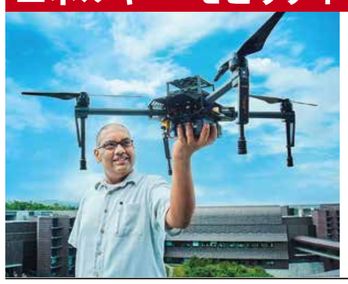
漁業の未来をどう守る?

気候変動は、沖縄の漁業や漁師の暮らしにもさまざまな影響を与えています。OISTは県内33の漁業協同組合の漁業者を対象に調査を実施。その結果をもとに、沖縄の漁業関係者や沖縄県職員、学術専門家が一堂に会し、持続可能な漁業について議論を深めるワークショップを開催しました。そこで得られた知見をもとに、持続可能な漁業と地域社会の未来に向けた提言を取りまとめ、沖縄県へ提出しています。

老化の仕組みを解き明かす

健康寿命の延伸は、沖縄だけでなく世界共通の重要な課題です。OISTは細胞膜の損傷が老化を引き起こす仕組みを世界で初めて発見。沖縄県産業材にも着目しながら、健康維持や老化予防につながる研究を進めています。

エネルギー・モビリティ・物流



島の課題を沖縄発のイノベーションで解決する

島しょ地域には、エネルギーや移動、物流など特有の課題があります。OISTではキャンパスを実証の場（テストベッド）として活用し、企業や自治体と連携して新技術の検証を実施。持続可能な地域社会や新たな産業の創出を目指しています。

OIST TRIVIA #03

研究者の娘さんが名付けた「イカチュウチュウ」思わぬ人気に。



2025年、OISTの研究グループは野生のアオリイカの胃や腸から2種類の新しい条虫類（サナダムシの仲間）を発見しました。研究チームは、そのうちの一種の和名を「イカチュウチュウ」と命名。イカの腸や胃に寄生し、組織を消化していることが名前の由来です。すると、この何とも覚えやすい名前がSNSで大きな話題に。かわいらしい響きからファンアートが続々と投稿され、その名を冠した歌や飲み物まで登場しました。
イカチュウチュウは、最先端の科学が思いがけず人々の日常とつながったエピソードです。

沖縄から新しい産業を生み出す

科学が支える イノベーション

沖縄発、世界に広がる イノベーションを創る

OIST Innovationは、研究から生まれた新しい技術やアイデアを、社会や産業で役立てるための取り組みを進めています。研究をビジネスにつなげるための資金や支援プログラムの提供をはじめ、企業との共同研究、新しい会社づくりまでを幅広くサポート。沖縄から世界へ新たな技術やビジネスを生み出し、地域経済の発展と社会の課題解決に貢献しています。

OIST | Innovation





企業・社会との交流・連携
産学連携や共同研究
ネットワークづくりを推進



イノベーションを支える環境
インキュベーション施設で
挑戦を支援

OISTイノベーション アクセラレーター

インキュベーション 施設

世界を目指す起業家が沖縄に集まる

OIST Innovationでは、最先端の科学技術を生かした新しい会社（スタートアップ）の誕生と成長を支援しています。「OIST Innovation Accelerator（アクセラレーター）」には、革新的な技術や研究成果、アイデアを持つ起業家や研究者が国内外から参加。資金提供や専門家による助言、企業や投資家とのネットワークづくりを通して、研究成果を新しい製品やサービスへと育て、事業の成長を後押ししています。「OIST Innovation Incubator（インキュベーター）」では、オフィスや研究・実験設備を備えた施設を提供しています。スタートアップや企業、研究者、投資家が集まり、交流や共同研究、新しい技術やビジネスづくりを進める拠点として、沖縄から世界へ向けたイノベーションの創出を支えています。

沖縄の特徴や資源を活かした研究開発・新産業創出プロジェクト

各プロジェクトについて詳しくは➡



© Keishu Asada

イカ養殖の未来を切りひらく

世界的に需要が高まるイカですが、養殖の難しさから安定供給は大きな課題となっています。OISTでは、これまで難しいとされていたイカの長期飼育に挑戦し、研究室で10世代にわたる飼育に成功しました。さらに、病気の原因となる寄生虫の発見や環境に配慮した対策技術、人工飼料や飼育プラットフォームの開発にも取り組み、持続可能なイカ養殖の実現に向けた基盤づくりを推進。その成果をもとに、新たな事業化への挑戦も生まれました。



沖縄生まれの“健康米”を育てる

OISTの研究チームは、血糖値を下げる効果があると評価された新品種米「ちゅらおとめ」を開発しました。ゲノム情報を活用し、難消化米の特性を沖縄の気候に適した品種に導入。恩納村での栽培と収穫にも成功しました。健康づくりに役立つお米として、県産食材を活用した新たな商品開発への期待が高まっています。



出典：iNaturalist

AIが外来種の侵入をいち早く見つけ、沖縄の自然を守る

沖縄の生態系に影響を与える外来種カエルをリアルタイムで検知するAIシステムを開発しています。小型センサーが鳴き声を自動で分析し、外来種の存在をいち早く把握。広い地域を効率的に監視できるため、これまで人手に頼っていた調査を効率化し、迅速な対策や生物多様性の保全につながることが期待されています。沖縄の豊かな生態系を守る新たな手段として注目されています。



廃棄物を地域の資源へ

OIST発スタートアップ企業が、AIを活用して沖縄の有機廃棄物を高付加価値な資源へ生まれ変わらせるアップサイクル技術の開発に取り組んでいます。泡盛もろみやおから、モズク残さ、サトウキビの搾りかすなど、沖縄ならではの未利用資源を活用し、資源循環と新たな産業創出を推進。養殖用飼料への活用も進められており、県内企業との連携を通じて、離島を含む小規模なコミュニティの中で資源を循環させる持続可能な仕組みづくりを目指しています。



海のマイクロプラスチックを見える化する

海洋中のマイクロプラスチックは、漁業や食の安全に関わる新たな課題となっています。OISTの研究チームは、沖縄の漁業関係者からの声をきっかけに、AIを活用したマイクロプラスチック検出技術の開発に取り組んでいます。海産物の安全性向上と、持続可能な漁業や海洋環境の保全への貢献が期待されています。



エビ養殖の未来を支える科学の力

OISTの研究チームは沖縄県内のエビ養殖事業者と協力し、養殖池の状態を科学的に見える化する技術を開発しています。水中に含まれる環境DNAなどを解析することで、病気や環境変化の兆候を早期に把握。養殖管理の効率化や生産性向上を支え、持続可能なエビ養殖の実現を目指しています。なお、OISTは東京海洋大学と共同で、クルマエビのゲノム解読に世界で初めて成功し、クルマエビの生物学的理解の深化にも貢献しました。

環境にやさしい排水処理技術を開発

OISTは沖縄県内の研究機関と連携し、養豚場の排水を低コストで効率よく処理する新しい技術を開発しています。微生物の力を活用することで、環境負荷を抑えながら有機物や窒素を同時に処理できるのが特長です。本技術は企業との連携による実用化も進められており、沖縄から国内外の持続可能な畜産業への貢献が期待されています。

世界のOIST



世界の科学を前進させる

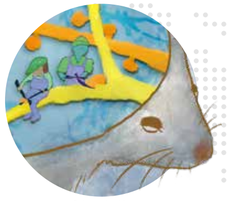
OISTで生まれる研究成果は、生命の謎を解き明かす基礎研究から、量子技術や医療につながる先端研究まで多岐にわたります。Science や Nature など世界最高峰の学術誌に多数の論文が掲載されるなど、世界トップレベルの研究成果が次々と生まれています。

各研究について詳しくは➡



酸素が切り拓いた生命進化の歴史 地球生命のルーツを探る

分子時計解析を用いて、細菌が大規模な光合成の普及以前から酸素を利用していた可能性を発見。地球上の生命進化の歴史を書き換える可能性を持つ研究です。Science誌に掲載。



© Luo-chu Yang

記憶はどのように長期間保存されるのか 脳の記憶メカニズムに迫る

人工冬眠させたマウスの脳を調べることで、長期記憶が脳内でどのように維持されるのかを解明。記憶の仕組みに関する長年の謎に迫る成果として、Science誌に掲載されました。



© Peter Ginter

「昆虫の危機」を島で観測 生物多様性の変化を可視化

フィジー諸島のアリ群集を長期間調査した結果、世界的に懸念される昆虫減少の兆候を確認。生物多様性の変化を示す重要な研究成果としてScience誌に掲載されました。

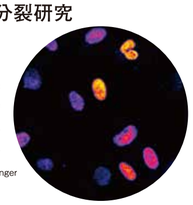


見えない量子を操る 量子アルケミーへの第一歩

半導体中の特殊な励起状態「エキシトン」を利用し、理論上の概念と考えられていた量子アルケミーの実現可能性を示しました。新しい量子材料や次世代量子技術につながる成果としてNature Physics誌に掲載されました。

がん治療につながる細胞分裂研究 細胞が異常を発見する仕組みを解明

細胞分裂の際に起こる異常を検出する新たな分子メカニズムを発見し、Science誌で発表しました。がん細胞の増殖を抑える新しい治療戦略につながる可能性が期待されています。

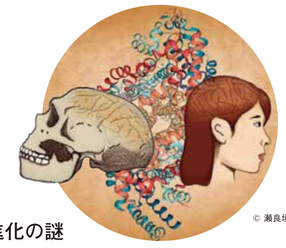


© Franz Meitinger



量子の世界で起こる「チームワーク」 新しい量子現象を発見

多数の量子スピンが協調して振る舞う「超放射（スーパーラディアンス）」を実証。量子コンピューティングや次世代通信技術に応用が期待される成果です。Nature Physics誌掲載。



© 瀬良垣 香織

ノーベル賞受賞者が挑む、人類進化の謎

OISTのスバンテ・ペーボ教授は、2022年にノーベル生理学・医学賞を受賞した古代人類のDNA研究の第一人者です。OISTでは現在も、人類進化の謎に迫る研究を続けています。2025年には、現生人類とネアンデルタール人・デニソワ人を分けるごくわずかな遺伝的変化が、脳内の化学反応や行動に影響した可能性を発見しました。人類がどのように進化し、現在の私たちへとつながったのかを理解するための新たな手がかりとして注目されています。PNAS誌掲載。

地球上のアリを 3D で記録 生物多様性研究を変える新技術

世界中のアリを高精細な3Dデータとして記録・共有するプラットフォームを開発。研究者が地球規模で生物多様性を調べるための強力な基盤となっています。Nature Methods誌に掲載。

© Julian Katzke

